

## 市民活動フォーラムみのお 2014年度 1年のあゆみ(成果概要)

《2014年度事業計画・基本方針より》

- ☆ NPOの自立性を高めます
- ☆ セクター間の連携を推進します
- ☆ NPOの担い手を増やします

☆おことわり☆

本冊子での実施日 4月～12月は  
2014年の、1月～3月は2015年  
の日付をさします。

2014年度基本方針として掲げたものについて、以下のような成果があった。

### [NPOの自立性を促す仕掛け]

#### ☆支援金制度による市民活動団体の支援

5年目の実施を行い、多くの団体から申請を受けて繰り越してきた原資もほぼ使い切る状態になった。原資の不足により交付が行きわたらない状態の一方で、年度終了時に余剰金を出して返金という事態も一部でできている。今後に向けて工夫が必要である。

#### ☆ファンドレイジングの提案・啓発

4年目に入った「チャリティタウンプロジェクト」では、7団体がエントリーし協力店舗は20店。今回は寄附付きメニューに加え、お店や団体と共催でさまざまなチャリティイベントも開催した。また、エントリー団体から3団体がクラウドファンディングサイト「キッカケ」での資金調達に挑戦。見事、全団体が目標を達成した。

##### 【成 果】

- 前期支援金募集の前に行われる報告会までが交付事業の責任であるという認識が定着してきた。支援金申請をブラッシュアップの場として事業につなげている。
- チャリティタウンプロジェクトの意義が徐々に広がり、店舗同士の連携や、他のイベントの協力など、社会貢献度も増えてきた。今年度は、エントリー団体のクラウドファンディング挑戦や、寄附付き商品だけでなく、店舗の協力でオリジナル講座開催で参加費を寄付に回すなど、寄附の提供スタイルも広がった。

### [セクター間の連携]

#### ☆子育てに関係する市民活動団体などのネットワークの構築

2010年度より取り組んでいる子育て支援のネットワークを子育て支援のみを専門として行う団体以外にも積極的に広げた。

##### 【成 果】

- NPOフェスタ期間には複数団体のコラボレーションで「キッズフェスタ」を開催した。
- ネットワークの団体の多様性が高まったことで、よりコラボレーションが促進された。

#### ☆広域的中間支援組織との連携

関西NPO支援スタッフネットワーク(KNN)の団体と協働で、NPO法人SEINと「NPO法人事務力アップセミナー&検定」を共催。さらに、吹田市市民公益活動センター、高槻市市民公益活動サポート

センターと共催したシンポジウム「地縁と志縁で支え合うまちづくり」も共催した。どちらも日頃からネットワークを結んで情報交流し、信頼関係を構築して出来た協働事業の開催となった。

【成 果】

- 岡山NPOセンターが推奨する事務力アップセミナーと検定というパッケージ事業は、事務局スタッフのスキルアップを図る検定という結果がはっきり表れる研修内容であり、NPO法人の現状を把握する上でも効果的な企画となった。来年度も継続して行う予定である。
- 吹田の呼びかけで行ったシンポジウムは、日頃から地域課題と感じていることについて、それぞれの地域で今まで顔を合わすことのない市民同士の対話を作る機会になり、自分たちの地域について忌憚のない意見を交わす第一歩になった。今後も中間支援として、地域課題にどう向き合うべきか、しっかりと取り組んでいく予定である。

☆大学との連携の推進

箕面市と包括協定を結んでいる大阪大学との連携を中心に、昨年に続き豊中キャンパスでセンター事業「市民社会講座」の開催や、みのお市民活動センターや他施設を会場に大阪大学日蘭学生会議や外国語学部の学生たちと、行政担当課とともに市民向けの公開講座等を協働開催した。

【成 果】

- 市民参加が活発なオランダの学生を迎えて、日蘭学生会議主催の高齢者福祉の現状と課題を現場感覚で知ってもらふフォーラムの開催に協力した。稲ふれあいセンター内にある多世代交流センターや行政を加えて、それぞれの強みを活かしたフォーラムになった。

☆東日本大震災の復興支援活動を通じた団体間のマッチング・連携

震災から4年を迎える2014年度は、夢の実支援金交付事業である「防災ラジオドラマ」の取り組みを紹介し、タッキー816 サテライトスタジオを設けてライブ放送を行った。

【成 果】

- 恒例になった「手をつなごうチャリティコンサート」は4年目を迎え、メイプルホール小ホールで2回公演を開催。募金148,642円を山形県で活動する「葉っぱ塾」に寄付した。
- 東日本復興支援イベントでは、聖母被昇天学院による聖歌隊のチャリティコンサートと被災地支援基金「せんだい・みやぎNPOセンター『はばたけファンド』」の募金活動を行い、83,187円を集め、今までに集めた募金と一緒に50万円を同ファンドに寄付した。

[NPOの担い手を増やす]

☆学生ソーシャル広報チーム“promo”(プロモ)の活動

「NPOサポーター情報誌」での情報発信だけでなく、学生を中心にしたNPOの担い手を掘り起こし、新たな活躍の場を提供した。

【成 果】

- 学生の参加者7人が、広報のスキルアップを図る講座受講やNPOの現場で活躍する人に取材をしてフリーペーパーを2号発行するなど、積極的に活動展開した。
- 学生会員1口1000円、あしなが会員5000円という新たな会員制度を導入した。

☆みのお市民活動センター 第3期指定管理者として指定される

2014年9月に、みのお市民活動センター第3期目の指定管理者公募に応募し12月議会で正式に指定された。この5年間で、将来の展望をしっかりと描いていきたい。